

2020年5月吉日  
学校法人いいづな学園事務局

## 2019年度 学校評価のまとめ ～ グリーン・ヒルズ 小学校、中学校～

### 1. 本年度の学校評価への取り組み

いいづな学園では、学校を運営する上での課題を明確にし、次年度の重点目標を設定するために、本年度より学校評価に取り組むこととした。また、学校関係者の思いや要望、教職員の思いや要望を的確に把握するためにも学校評価システムの構築に取り組んだ。

#### 学校評価の流れ

2019年12月	保護者アンケートの実施
2020年 2月	保護者アンケートを受けての自己評価
2020年 3月	保護者に保護者アンケート結果を報告 評価者に保護者アンケート・内部評価を公表、外部関係者評価実施
	評価方法:保護者・自己評価を受けての意見聞き取り及びアンケート調査
2020年3月	理事会及び評議員会で内部評価及び外部関係者評価結果を報告
2020年 4月	【中止】保護者会で外部関係者評価の説明
2020年 5月	ホームページに公開

### 2. 自己評価の結果について

保護者アンケートについては、肯定的評価が増しているが、Cの評価があり注意深い考察が必要と思われる。考察の詳細については、自己評価結果参照。

### 3. 外部関係者評価の結果について

評価を依頼した。両氏ともに、保護者アンケートを反映した評価となっている。

今年度の評価者は、「①地域から1名」及び「②学校教育活動に協力して頂いた方1名」に依頼した。両氏ともに、保護者アンケートを反映した評価となっている。活動報告を行い、聞き取り調査を行う中で、地域内での活動について評価を頂き、今後の取り組みについても期待を頂いている感じた。

### 4. 来年度への課題

今年度の目標としてきた「自然体験活動を重視する中で、プロジェクト学習や基礎学習の向上をはかる」という点に関して、自然体験からプロジェクトへのつながりについては、保護者アンケートの結果及び内部評価が伸びたことから、ある程度の改善が行われたと考える。

来年度は、この成果を基礎学力についても広げていくよう丁寧な指導を行い、「自ら学ぶ姿勢」が身につくようつよくサポートしていく。

また、地域における活動を評価して頂いたので、地域に根差した教育活動をさらに授実させてたい。

## 2019年度 グリーン・ヒルズ評価シート

2019年度グリーン・ヒルズの学校評価は以下のとおりとなりました。

A:評価できる B:やや評価できる C:やや評価できない D:評価できない

※ 評価段階 : A > B > C > D

項 目		評 価				
		児童生徒	保護者	内 部	外 部	
教育目標の達成具合	1	先生は、子どもの学習に対する自律性を確立できる教育を行ったと評価できる。		B+	B+	B+
	2	先生は子どもたちが助け合い、お互いのことを考えられる関係性の確立を達成したと評価できる。		B+	B+	A
教育課程への満足度	3	グリーン・ヒルズは、子どもたちが学習意欲を満足できる学習と活動を提供していると評価できる。		B	B	B
	4	グリーン・ヒルズは、子どもたち自ら学習したいと思える活動を提供していると評価できる。	B+	B+	B	B
	5	グリーン・ヒルズでは、子どもたちが担任や友人との信頼関係が構築されていると評価できる。	B+	B+	B+	B+
	6	グリーン・ヒルズは、子どもたちが満足する学校生活を提供していると評価できる。	B	B+	B	B+
保護者の意見	<p>小) 親から見て学校の方針が見えにくいところがある。教育指導要領もグリーン・ヒルズの教育方針と方向性が近づいてきているので、それをどう活用していくのかを親側も学校と考えていけるような場を多く持つことが必要と思っている。</p> <p>小) やりたいことをとことんさせてもらったり、昨年の災害からりんご園での復興支援プロジェクト、ワールドオリエンテーションと本当に素晴らしいことを提案してくれていると思う。</p> <p>小) いつも細やかに子どもの成長を見守ってくれている。来年度の夏も親子自然教室をぜひ開催していただきたい。</p> <p>中) 中学生には、小学生より、より深く密に子どもの気持ちに寄り添って頂きたいです。</p> <p>中) プロジェクトの進め方について少人数であるからこそ、より詳しい調査や質を高め、深めていけるようなサポートなどが欲しい。</p>					
内部評価	<p>学校の目標である「自律性の伸長」と「関係性の深化」の項目はよい評価が増えていて、定着していることが感じられる。基礎学習、自治活動、プロジェクトの三分野においても高評価となっている。しかしながら、自律学習者として自ら学ぶという姿勢については、動機の確立が不十分と感じられる。</p> <p>今年度の重点目標「自然体験活動を重視する中で、プロジェクト学習や基礎学習の向上をはかる」については、学校林活動やりんご園プロジェクトなどの活動での多岐にわたる広がりや、疑問を追求する姿が見られ充実につながった。基礎学習との結び付けはまだまだ研究の余地が多いと思われる。</p>					
外 部 意 見 評 価 の	<p>内部評価から感じられることは、それぞれの目標は達成に近い評価がされているが、前年度よりCと評価された項目が気になる。</p> <p>こちらからの質問として、グリーン・ヒルズ中学校を卒業された生徒の進路はどんな状況か教えていただけるとありがたい。区民が皆で地元の学校として応援できる工夫も必要と思われる。</p> <p>児童生徒数が少ないという大きな利点を最大限に生かした教育をされていると感じる。この点を生活用し基礎学習の向上を図る取り組みをしていくことが大切ではないでしょうか。</p>					
来年度課題の	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒数の減少により、集団活動の成立が難しい(特に中学校)。魅力ある教育内容と共に広報を検討する必要がある。</li> <li>・自然体験活動をカリキュラム都への位置づける為に教職員の経験や地域理解のさらなる研鑽が必要である。</li> </ul>					

### 【次年度の重点目標】

「自然体験活動を通して、「プロジェクト」による探究力の育成と基礎学習や自治活動の充実を図る。」

今年度の目標をさらに深め、飯綱高原の豊かな自然のなかにある特性を活かし、自然と積極的に触れ合うことにより、感性豊かな人間性と創造性を備えた子ども、人と人との関係や人と自然との関係を主体的に追究していくことのできる子どもを育てる。そのために、「自然体験活動」を重視する。